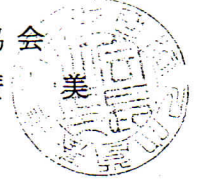


大基委大評第 269 号

平成 23 年 3 月 11 日

甲 南 大 学
学 長 高 阪 薫 殿

財団法人 大学基準協会
会 長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について (通知)

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果 (甲南大学)」

以上

〈 改善報告書検討結果（甲南大学） 〉

[1] 概評

2006（平成 18）年度の本協会による相互評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 16 項目、勧告として 1 項目の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、貴大学が、これらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることを確認できる。また、多くの項目についてその成果も満足すべきものである。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法について、人文科学研究科および自然科学研究科では、社会人入試制度により入学した学生に対しての特別な配慮が組織的・体系的に実施されておらず、改善がなされたとはまだ認められない。また、文学部社会学科や人間科学科、理工学部における年間履修登録単位数の上限設定は、改善されていない。さらに、自然科学研究科博士後期課程における学位取得者数についても引き続き改善に向けての努力が求められる。

学生の受け入れについて、社会科学研究科経済学専攻では、学生募集方法や入学者選抜方法、教育体制の改善・改革を行っているが、定員が充足されていないので、一層の努力が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上